

# 国家の輪郭と越境

*The Contours of State and Border-Crossings*

— 『Mother India』を読む PartⅣ —

第4回研究会のお知らせ

参加自由

下記の通り、第4回「国家の輪郭と越境」研究会を開催いたします。

参加自由ですので、ぜひご参加ください。

日時 平成21年6月30日（火）15時～17時

場所 大阪大学箕面キャンパス  
<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/accessmap.html>  
総合研究棟6階「国家の輪郭と越境」プロジェクトルーム

研究会題目 『Mother India』を読む

趣旨

本研究会では、「地域大国」としてのインド、中国、ロシアがこれまでに描かれてきたのかを、多様な資料を精読して、広く検証することを目的とする。一冊目に取り上げた『Mother India』は、アメリカ人著者 Katherine Mayo が英領インド視察後に作成したものであり、Part I から Part V まで全5回の研究会で扱う。第1回研究会の前半部分ではメイヨーのインド視察の概要が説明され、公衆衛生に注目したという彼女の活動内容が紹介された。後半部分では、メイヨーがインドの後進性の最大要因であると繰り返し強調した、インド人が「性的過多」であるという主張について話し合われた。第2回研究会では、インド女性の存在がいかに軽視されているのか、女兒殺し、寡婦が置かれる困窮状態、女性隔離制度、女子教育の普及率の低さなど、メイヨーの指摘を追った。第3回研究会では、おもにカースト制度ならびに教育制度の問題点をメイヨーがどのようにとらえていたのかを考察した。偏った面のみを強調した作品だと非難されてきた同書であるが、「西洋」「近代」的な視点から描かれたインドイメージを検証する上で、非常に有益なテキストである。第4回研究会では、インド国内の改革運動に触れながらインドイメージの成立過程と変容を考えたい。

使用テキスト Katherine Mayo 著 『Mother India』1927年  
Blue Ribbon, New York (Part IV) (テキストは配布します)

問い合わせ先 科学研究費補助金 新学術領域研究「国家の輪郭と越境」プロジェクト事務局  
dai5han@world-lang.osaka-u.ac.jp

